

バイオ系のキャリアデザイン

就職支援 **OG OB** インタビュー編

Interview ①

大阪大学大学院生命機能研究科
細胞ネットワーク講座 ミトコンドリア動態学研究室

岡本（近藤）徳子

出身大学・卒業年度：広島大学遺伝子科学研究科 1998年 博士課程前期修了，論文博士（理学） 2008年（名古屋大学理学研究科）

博士論文タイトル：酵母*Saccharomyces cerevisiae*のミトコンドリア形態形成を制御する新規F-boxタンパク質，Mfb1の機能解析



「これまでの仕事について」

◆現在の担当職務

研究員として自身の研究プロジェクトの推進、研究室のマネジメント、技術補佐員さん、学生さんへの実験指導など。

◆現在までのキャリアパスとその仕事内容

修士を修了して以来、ほぼずっとアカデミアの基礎研究の現場で仕事してきました。1998年渡米後、テクニシャン（実験技術者）としてダラス、UTSW メディカルセンター・病理学部の研究室にて働き始めました。その後、ドイツ、ミュンヘン大の生化学分野の研究室2か所を経て、アメリカ、Utah大・生化学分野のJanet Shaw研究室で4年半仕事させていただきました（途中よりリサーチアソシエイト）。2006年末に帰国後、基礎生物学研究所にて研究員に（この間にこれまでの仕事にて学位取得）。東工大を経て、現在、阪大にて研究を続けています。転々としたのは、夫の研究先の移動に伴ったためで、ともに研究の機会が得られたのは偶然と幸運の重なりです。

◆仕事を始めた頃を振り返って

初めてアメリカで仕事した際、言葉と文化の違いで想像以上に苦戦しました。日々の実験、ラボの物品の注文からマウスの世話まで、日本のシステムとの違いに驚くことは多く（自身の勘違いミスから生じるトラブルも重なり）、そこで鍛えられました。仕事を安心して任せてもらえる事を目指して日々精一杯。ダラスでの経験を経て、細切れに実験を預かるよりも、興味あるテーマをもちながら研究に携わりたいという想いを抱くようになっていきました。

◆現在の研究の魅力とやりがい

現在は酵母をモデルに、細胞内の現象（主にミトコンドリア品質管理）の謎解きをしています。臨床研究から離

れたテーマなので、すぐに役立つかは微妙ですが、仮説と検証の繰り返しの中、パズルが解ける瞬間の喜びは大きいです。

◆現在の仕事をしている理由

子供の頃から科学に興味があり、手先を動かすのも好きでした。また、実験が得意かもしれないと勘違いする場面に遭遇したことや、外国で自分の経験を活かして仕事をしてみたいという強い動機が重なって、今につながっています。

◆将来設計（描けるキャリアパス）

現在はRPD研究員（日本学術振興会）なので、次のステップではより長期的に自身の経験・能力を活かせる場を見つけたいと思っています。

◆挑戦したいと思っていること

最近ではアカデミアや基礎研究だけに限定するばかりではなく、今までとは何か異なる形で、自分が世の中に貢献できる場はないかと思っています。たとえば、一般の方にもサイエンスがおもしろいと感じられる場を身近に提供する事や、科学で人をつなぐ仕事に挑戦したいです。

◆社会人として一番感動したこと

どんな国の人でも人間の根っこみたいところは同一であるという事を研究や生活を通じて、いろんな場面で体感できたこと。サイエンスでの理解や共感・その他嬉しいことは国境を超える、と感じました。

◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

一番苦しかったのは、ドイツにいた頃、わからないことをわからないと言えなかった上、自分の意見がはっきりと伝えられなかったことです。西洋的な思想の中に以心伝心・遠慮は美德ではなく、感じたり思ったりすることを直接的に表現することが大事とわかり、少しずつそれ

ができるようになると、楽になっていきました。間違いを恥ずかしいと思わなくなることで、少しずつ周りに聞けるようになっていったと思います。言葉の壁を作ることが嫌だったので、国外で夫と同じ職場になった際には職場・人前では二人の会話で一切日本語を使いませんでした。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

自分を活かすため。その過程を楽しむため。

◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

自立。心身ともに生きる糧を得る。とともに、誰かのために、注いだエネルギーを世に循環、還元できるということです。

◆ワークライフバランスで工夫していること

研究ではどうしても、定時には終われない場面も出てき

ます。必要に応じ、子供・夫に遠慮せず、時に思い切り仕事をさせてもらうようにしています（家族の理解に感謝！）。

◆現在の夢

現在進行形のプロジェクトを今年中に納得する形にまとめること。仕事・プライベートともに、周りや家族と共感し合い、楽しい思いを日々重ねていきたいです。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること

時間の自由度が一番高い時期なので、いろんな出会いを楽しめるといいですね。地元交流でも世界旅行でも、自身が面白いと思える事、何でもやってみたらよいかと思います。

Whatever you want, you can do it!

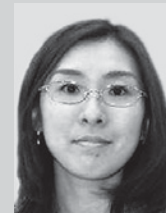
連絡先 E-mail: nokamoto@fbs.osaka-u.ac.jp

Interview ②

みずほ情報総研株式会社環境エネルギー第2部エネルギーチーム
コンサルタント

宮森映理子

出身大学・卒業年度：東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 2010年3月 修士課程修了
修士論文タイトル：中国ホルチン砂地における灌木種・高木種植栽が下層植生回復にもたらす効果の差異



「現在の仕事について」

◆担当職務

有機資源（バイオマス）由来のエネルギーや化学製品などに関する、官公庁からの受託業務や民間企業の事業展開サポート業務。年間5～10のプロジェクトに従事。

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

バイオマス由来のエネルギーや化学製品に関するプロジェクトのメンバーとして業務に従事。また、年間数本は、自らプロジェクトリーダーとして営業から納品まで中心となって業務を推進。

◆そこでのやりがい

お客様が政策立案や事業展開をされる上での「次の一手」を考えるお手伝いができるという点にやりがいを感じます。自分が中心になってお客様に対応している業務であるほど、そのやりがいは大きいです。

◆現在の会社・組織の魅力

風通しがよく、年次を問わず自分の意見や考えを積極的に表明しやすい空気である点が魅力です。

◆現在の就職を決めた理由

「(広い意味での) 情報」という側面から、社会の変化を支援するような仕事がしたいと考えたため。

◆将来設計（描けるキャリアパス）

バイオマスの有効活用を進めるためのさまざまな政策や事業推進のサポートを続けることで、社会の変化の一端を担えるようになりたいです。

◆挑戦したいと思っていること

お客様の「次の一手」を、＜考える＞だけでなく＜実行する＞支援ができるコンサルタントになること。

◆社会人として一番感動したこと

プロジェクトでしっかりとした成果を出すことでお客様に認めていただけて、次の業務につながったこと。

◆社会人として一番困難だったこと & どう乗り越えましたか

業務が思うように進んでいないのに、周囲の先輩にうまく助けを求められずに抱え込んだこと。納期ギリギリにやっと周囲にSOSを発することができ、どうにか納品まで漕ぎ着けました。今は、仕事は早めに、必要に応じて周囲と協力して、進めるよう心がけています。

◆仕事のプロになるコツ

お客様の言葉によく耳を傾けること。よりよい伝え方、見せ方を追求すること。私もまだ修行中です。

◆理系人材力、どこで発揮していますか？

論文を書くことで論理思考力のトレーニングができていたので、コンサルタントとしての基礎力につながったと感じています。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

「こんなふうに世の中に役立ちたい」「こんな世の中になるとよいな」を実現するため。

◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

「心」と「頭」と「身体」を磨くための投資資金。

◆ワークライフバランスで工夫していること

1つ1つの仕事にかかる時間の目標を設定して、だらだらと作業を続けないように心がけています。

◆現在の夢

47都道府県の訪問制覇（残り7県）。
初めて自分の下に後輩がいたので互いに成長したい。

◆将来の展望

仕事を「受ける」のではなく「創れる」ようになりたい。
いつか農村に住んでテレワークで働きたい。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること

「語学力があることが得になるのではなく、語学力がないことが損になる」ので、語学力（英語・日本語（!））をもっと鍛えておけばよかったです。

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

専門に直結しない仕事に就いたとしても、自分の姿勢次第で、過去の経験を活かせる機会はたくさん出てきます。

連絡先 E-mail: eriko.miyamori@mizuho-ir.co.jp